

○議長（松尾徹郎君）

木島環境生活課長。〔環境生活課長 木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

法律が改正になりまして、従来の熱中症の警戒アラートに加えて、暑さ指数が35以上になりますと、熱中症の特別警戒アラートというのが発表されます。今、当市で対応している部分というのは、この特別警戒アラートが発表されたときに事前に指定した、市町村が事前に指定した施設に関しまして、開放を決めているというものです。それが、議員おっしゃったように、今現在は4施設となっております。県内を見ますと、これとは別に特別警戒アラートの発表の有無にかかわらず、コミュニティオアシスだとか、あるいは涼みどころというような形で、名称を変えて、市有施設、民間施設の一角を開放していらっしゃる市町村もございます。当市におきましても、特にスーパーとかで休憩コーナーであったりとか、あるいはイートインスペースがあったりというのが従来からありますので、またそういった対応につきましても、法に基づいた対応とは別に検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

もしそうであるのであれば、統一した、分かるような案内板といいますかね、そういったものももし行政のほうで支援して、統一したシェルターというご紹介をしていただければよろしいかなと思います。ぜひ検討してください。

以上で、私からの一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を15分といたします。

〈午後4時08分 休憩〉

〈午後4時15分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、宮島 宏議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。〔14番 宮島 宏君登壇〕

○14番（宮島 宏君）

こんにちは。清新クラブの宮島 宏です。

本日は、世界遺産に関連した教育普及活動とジオパークの際に再審査についてを伺います。

7月27日にインドのニューデリーで開催されたユネスコの第46回世界遺産委員会において、佐渡島の金山が世界文化遺産に登録されました。新潟県初、国内26件目の世界遺産です。

県の教育委員会の橋立金山調査の現地案内をした私は、微力ながら貢献させていただいたと思っております。登録までの道のりを考えると、非常に感慨深いものがございます。

以下、市長に伺います。

- (1) 佐渡島の世界遺産登録までには28年を要し、その間には紆余曲折がありました。今回の登録は様々な方々のご尽力の結果ですが、市長はどのように評価されますか。
- (2) ジオパークには4年間隔の再審査があります。一方、世界遺産には記載資産の状況に深刻な劣化があった場合を除いて再審査はありません。世界ジオパークに設定されている再審査やその間隔、及び他国のジオパーク関係者が現地審査をするルールは適切なものと考えていますか。
- (3) 佐渡金山の世界遺産登録後、フォッサマグナミュージアムでは佐渡の銀黒と呼ばれる金鉱石を展示し、詳細なパンフレットを配布するなど、トピック展示を行っております。今後、市内で世界遺産・佐渡島の金山の価値、地球科学、歴史などについての教育普及活動の予定はありますか。
- (4) 修学旅行や中学生広島派遣研修などで、国内の世界遺産に子供たちが接する機会があります。そのような場面は世界遺産やユネスコについて教育する好機だと思えます。どのような教育をしていますか。
- (5) 金の科学や歴史についての教育普及活動の予定はありますか。
- (6) 橋立金山には吉田 茂の長兄の竹内明太郎が関わり、明太郎の父、綱は板垣退助の側近、大隈重信の要請により、明太郎の資金が早稲田大学理工学部の設立に使われたことなどを、私はジオパークの魅力として市内外で何回も紹介してきました。今後、橋立金山や蓮華银山に関わる人々についての教育普及活動の予定はありますか。

以上、1回目の質問でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

市長に代わりまして、宮島議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、長年の取組に対する大きな成果であると受け止めております。関係の皆様のご尽力のたまものであり、心からお祝い申し上げます。

2点目につきましては、再審査のルールは、おおむね適切であると考えております。

3点目、5点目及び6点目につきましては、橋立金山の歴史的背景や金鉱石についての視点を含め、出前講座などで対応してまいります。

4点目につきましては、修学旅行の訪問先に世界遺産がある場合には事前に学習をし、ユネスコについては社会科の授業でも学習しております。

また、中学生広島派遣研修では、原爆ドームが世界遺産であることを学習しております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

佐渡が、世界遺産になるまでに28年間かかりました。それに比較して、糸魚川ジオパークは5年もかかりませんでした。いかに28年という年月が長いかわかりませんが、その間に佐渡の市長さんは、何人も交代したはずですよ。そういった中で事業を継続したということは、佐渡のすばらしさの一つだと私は思っております。私のほうからも、心よりお祝いを申し上げます。

続きまして、再審査についてです。

再審査は、1回目の質問で述べましたように、4年に1回行われております。

ただ、世界ジオパークの場合は、国内委員による調査が、世界の審査に先駆けて、その前年に行われます。つまり、4年間隔のうちの後期3年目、4年目は、審査を受けるということになります。つまり4年間で2回審査を経なければならない、そういったシステムです。

さらに、世界ジオパークが条件付再認定となった場合、幸い糸魚川は、今まで条件付再認定になったことはありません。

ただ、洞爺湖ですとか山陰海岸は、条件付再認定になってます。そうすると、条件付再認定の翌年に、国内委員による審査があります。それから、その翌年に世界の人の審査がございます。つまり、4年間のうちの3年目、4年目に審査を受けているのに、またさらに、その翌年、翌々年の審査を受けなければならない。つまり4年間に4回審査があるわけですね。こういった実態が、果たして適切なものか、再度伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

宮島議員ご指摘のとおり、やはり審査につきましては、財政的負担や審査員の派遣を含め、大きな負担がございます。また、国全体のレベルで、やはりジオパーク活動を展開していくためには、必要なネットワーク貢献の一つではないかなというふうに思っております。

ただ、やはり4年周期、またおっしゃるような4年の間に4回審査等があるということは、関係者がジオパーク活動の方針や意義を、改めて定期的に再確認できる機会ではないかなというふうに思っておりますし、また、4年間の成果等をまとめることによって、より充実したジオパーク活動につなげることができるのではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

世界ジオパーク地域が審査を受ける場合の準備活動というのは、私も一部、手伝わせていただきましたけども、かなりの労力を要します。それから、作った資料を今度は、視察、審査を受ける人に説明する場合の設定、これも少なからぬ労力を要します。再審査というものがジオパークにあるために、担当の事務局員は、再審査に通ることがジオパーク事業になってしまいがちなんですね。これは糸魚川でも、ほかのジオパークでも同様だと思います。もっと長い目で見て、自分のジオパークを育てていく。4年スパンじゃないですよ、もっと10年とか20年スパンで本当は見たいのに、目の前に審査があるために、それに引きずられて、長い目で見たジオパークの育てができない状況になっていると思います。

改めて伺いますけども、そういった再審査のためのジオパーク事業にはなってないでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

先ほども答弁させていただきましたが、この審査が、審査を受けるものが目的ではなくて、改めて自分たちが行ってきたジオパーク活動を再確認し、これからどのように進めていこうかというのを考えるよい機会だと思っております。

宮島議員おっしゃるように、様々な負担というのはございますが、この審査によって、一層レベルアップしたジオパーク活動ができていないかなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

審査の意義というものは、私も認識はしております。

ただ、糸魚川のように人口を持っている地域だけじゃなくて、国内の世界ジオパークには、市でも人口が1万1,000人ぐらいのところもあります。それから北海道には、人口が4,000人弱というところも世界ジオパークになってるんですよ。そういったところでも、糸魚川と同じように4年間に2回の審査準備をしなければならない。こういった実態は、ジオパークになることが非常にそれぞれの自治体に、名誉にもなっているんですけども、大きな負担になっているような気がするんですね。

後のほうで述べますけども、現地審査をしなくても、ジオパークの実態というのは分かると思うんです。例えば書類のみ、あるいはリモートによる対応、そういったものも、今の技術であれば簡単にできますので、そういったことも含めて、ジオパークでは検討はされてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

私も、JGNの事務局長会議等、参加させていただいております。やはり宮島議員おっしゃるように、審査の期間が短い、また手間が多くかかるというお声もお聞きしておりますので、今ほど議員おっしゃるように、新しいICT機器等を使ったものについて、検討のほうは、やはり事務局のほうでもお話のほうは若干は出ております。

ただ、それについて、やるかやらないかは、まだまだ検討段階だというふうに思っておりますので、今後そのような機会があれば、また、協議のほうの議題に上げたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

大西課長もジオパークについては非常に詳しいので、釈迦に説法になると思いますが、2019年の11月に、九州の天草ジオパーク、長崎県にあります。それが、長崎じゃない熊本県、失礼しました。日本ジオパークネットワークから退会しました。

天草ジオパークは、糸魚川とともに最初期からジオパークに関わった地域でした。なのに途中で、日本で初めて脱会してしまったんですね。その認定返上の理由は、集客が期待どおりではなかったということに加えて、認定更新のための審査も負担が大きいと判断したというふうに報じられております。

それから、2020年に南アルプスジオパークが、これは世界ではなくて国内のジオパークですけども、再認定になりました。その際、構成する4自治体、伊那市、飯田市、大鹿村、富士見町、この4自治体では、もうジオパークはやめるかというようなことまでなりました。その背景には、審査委員の発言が、かなりちょっと問題があったというようなことも報じられています。JGCの委員長、それから、今いる斉藤清一さんなんかも現地に行って、謝罪したなんていう記事も残っております。つまり再認定というのは、ジオパークにとってかなり問題を起こしているというのは事実だと思うんですね。

今後、大西課長の話では、そういったものの見直しも検討したいということなんで、一応参考までに、ほかのこういったジオパーク類似の世界的な登録システムが、どのように審査を受けているかということをおし上げます。

ユネスコには、エコパークというのがあります。正式には、生物圏保全地域というものなんですけれども、このエコパークは、10年間に一度の定期報告書の提出です。現地審査はありません。

それから、かつて世界記憶遺産と呼ばれていたもの、これもユネスコの取組です。現在では世界の記憶と呼ばれています。例えば、シベリア抑留者の資料、これは舞鶴とか敦賀にありますけれども、舞鶴の引揚記念館の方によれば、再審査や定期報告書の提出はないそうです。これはユネスコの取組。

それから、ユネスコではありませんけれども、同じく国連の食糧農業機関というものが創設したものがあまして、これは世界農業遺産です。佐渡が世界農業遺産になってますけれども、佐渡市の方によれば、5年に一度のアクションプランというペーパーを出せばいいことになってます。

このような例を挙げると、世界ジオパークは4年間に2回審査を受けていて、なおかつ現地審査

を伴っているというのは、かなり異例なものというふうに映ると思います。これは参考ですけども、もし何かコメントがあれば伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ご承知のとおり、ユネスコ世界ジオパークのユネスコとの審査の在り方、また日本の審査の在り方については、そういう意見の方もおられます。しかし、大半の方は、それで今進めております。

しかしながら、審査の在り方については、やはり問題があると思っております。やはりユネスコのほうの国内審査については、審査ではなくてアドバイスであるわけであります。ですから審査ではございません。基本的には、国内の審査においては、ユネスコの審査に準じておるわけでありますので、同じ受け方をいたしております。しかし内容については、やはりアドバイスを出す、審査に来たところが条件になっているようなところも以前ございました。また、これからもあるのかもしれない。

しかし、それはおかしいと思うのでありまして、各ジオパークは、自らがやっているジオパークの活動に対して審査を受けていくべきであるわけですが、いろいろな審査に来た人たちが、後に残していくのが条件になっているようなところがあるので、その辺はしっかりとやはり整理をしてもらわなきゃいけないと思っております。それはやはり各ジオパーク、このユネスコ世界ジオパークにおいても同じなんですけど、決してネットワークがやっつてるわけではございませんので、やはり各ジオパークがユネスコと審査を受けて認定になっておるわけであります。

そして、この活動内容をさらにステップアップしていくために日本ジオパークネットワークがあったり、アジアのAPGNネットワークがあったり、世界GGNがあったりしてるわけでありますので、そういったところできちっと、やはり我々もそういった意見は出していきたくと思っております。我々、今やっておる委員会の委員長にも申入れをいたしました。そのような形で、言われる、審査に来たから全ては受け入れるわけではございません。我々の意見をしっかりとってかなきゃいけないと思っております。これからも、そういう姿勢は貫いていきたくと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

日本のジオパークのトップランナーとして糸魚川ジオパークは、ずっと走り続けてきたと私は思っておりますけれども、ぜひジオパークが、よりよい形で進化していくように米田市長のご尽力に期待するところであります。

再審査については、これでやめます。

今度は、3番の佐渡の金山、そういったものの展示のことなんですけれども、これは展示場所としてはフォッサマグナムミュージアムになるかと思うんですが、佐渡の金は、実はフォッサマグナと非常に関係がありますし、それから日本海の拡大とも非常に密接に関係しています。大佐渡と小佐

渡の方向が、ちょうど新潟県と同じような方向になってますけれども、それはまさに、日本海が拡大していった方向にほかなりません。

佐渡は、確かに糸魚川市ではありませんけれども、フォッサマグナという切り口で見れば、非常に身近に感じなければいけない代物だと思います。なぜ佐渡に金があるのか、そういったことは、非常に地質学の基本的な部分ですので、子供たちや大人たちにお伝え願いたいなと思ってるんです。今後、佐渡を題材とした教育普及活動、今が旬だと思うんですね。そういったところで、出前講座等を充実させてみたらどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嵐口文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 嵐口 守君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（嵐口 守君）

お答えいたします。

今、旬の佐渡の世界遺産でございます。先ほどの、なぜ佐渡と糸魚川に金山、銀山があるか。地殻変動や造山期の話だと思いますし、そういった興味のある話をいろんな出前講座等を考えておりますが、過去にも講演会、また展示会等ございますので、そういったノウハウもございます。そういったもので検討していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

かつてフォッサマグナミュージアムにいたユニークな学芸員は、もういなくなりましたので、より健全な展示ができるかと思います。頑張ってもらいたいと思います。

次は、④修学旅行や中学生広島派遣研修についての部分です。

中学生広島派遣研修の目的、どんな目的のかなとホームページを見たところ、唯一の被爆国の国民として、被爆の恐ろしさ、苦しみを伝えるとともに、次代を担う子供たちの未来のために、平和で豊かな暮らしを認識することとなっております。非常に大事なものだと思います。

先ほど教育長の答弁では、広島に行ったとき、原爆ドームが世界遺産であるということは学習してるということで、大変安心いたしました。

ここで、関連してお聞きしますが、広島に飛行機で行くわけではないと思うんですね。糸魚川から鉄道に乗って、多分、新大阪か京都で乗り換えるのかな。で、新幹線で広島まで行くと思うんです。京都は、京都駅のすぐ近くに東寺という五重塔が見えますよね。あれは何か平安時代の唯一の建物だということです。あれ世界遺産。それから、もうちょっと行くと、姫路の駅の手前かな、姫路城が見えます。これも世界遺産。そういったものが車窓から見えたときに、ただ、車内でしゃべってるだけじゃなくて、今見れてるやつは、実はこんな価値のあるものなんだよと。そういうことも子供たちに伝えられるんじゃないかなと思います。

そういった視点は、例えば修学旅行や広島派遣研修では、ありますでしょうか。車窓から見える学び、そういった視点です。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小川こども教育課参事。〔教育委員会こども教育課参事 小川豊雄君登壇〕

○教育委員会こども教育課参事（小川豊雄君）

お答えさせていただきます。

車窓からというふうに言われますとちょっと定かではないんですけども、やはり修学旅行先、例えば京都ですとか奈良に行きますと、世界遺産がたくさんございます。そういった中で、子供たち、事前学習をする中で、そういったところについては徹底的に調べてから修学旅行に行くというふうに聞いておりますので、車窓からということについてはちょっとはっきりと申し上げられませんが、事前学習等では十分学習しているというふうに認識しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

姫路城は、新幹線からかなり長い時間、進行方向右手に見え続けてまして、平成の大修復が終わって、今では真っ白なお城が、白鷺城と言われるお城が見えてますので、ぜひ子供たちにも伝えてほしいなと思います。

それで、ユネスコに関係することなんですけども、戦争は、人の心の中に始まるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。これは、ユネスコ憲章の冒頭の部分です。このユネスコ憲章が発行したのは1946年11月4日です。つまり新潟県は、ヒスイを県の石にしてくれた日が、まさに、この11月4日、ユネスコ憲章の日なんです。

ユネスコは、国連の一機関であることは、皆さん誰もが知ってると思うんですけども、ユネスコに、ユネスコって国連ですよ、国際連合。ユネスコに加盟した時期と国連に加盟した時期、どっちが早いと思います。国連に入ってないのに、ユネスコなんか入れるわけないと思いがちでしょうが、実はユネスコに入ったほうが先なんです。それは、仙台市で行っていた世界初の民間のユネスコ協会の運動が大変評価されて、国連に入ってないにもかかわらず、日本は、ユネスコに入ることができたんです。その5年後、日本は国際連合に加盟してます。

実は、ユネスコに加盟したのは、戦後初の日本の国際社会復帰です。極めて重要なことだったわけです。そのユネスコに、ユネスコ憲章に日本人が行って、署名したわけですよ、ロンドンで。その署名した人、誰かご存じでしょうか。これは、前田多門なんです。前田多門と言って、聞いたことあるって人がいると思うんですが、実は新潟県知事です。終戦直前に新潟県知事をやっていた内務官僚でして、調べてみると、1944年7月13日に相馬御風宅に前田多門が来ています。それから、相馬御風の資料には、前田多門の書簡がたくさん残っているそうです。

このように、ユネスコ、ユネスコ世界ジオパーク、ユネスコ世界ジオパークといっても、ユネスコの今言った情報って、皆さんどれぐらいご存じでした、前田多門のこととか、ユネスコ憲章の冒頭ね。こういったものを、子供だけじゃなくて大人にも知ってほしいと思うんですよ。ぜひ、ジオパークらしい学習として、私の今申し上げたものも、ネタの一つとして頭の中に入れていただきたいなと思います。ユネスコは、世界のものでですけども、実は糸魚川にもかなりちょっと身近



な存在であったということです。前田多門の名前も覚えておいてください。

それから、さらにジオパーク的な切り口で言います。

広島に原子爆弾が投下されたのは、8月6日です。翌日の新聞に広島に新型爆弾投下って書いてありました。新型爆弾、原爆とは書いてない。

日本が広島に落ちた新型爆弾が原爆だと知ったのは、いつだと思えますか。投下されたのは8月6日、それを明らかにしたのは8月8日なんですよ。僅か2日後。日本人の理化学研究所の物理学者の仁科芳雄という人が現地に行って、病院のレントゲンフィルムを見て、それが感光してたんですね。強力な放射線が来た。これだけ強力な放射線が来るのは、原爆しかないということで、原爆と断定しました。

実は、仁科芳雄は、二号研究という研究のリーダーで、日本も実は原爆を作ろうとしました。福島県の石川町という、ウラン鉱物が出る場所があるんですが、そこでは、終戦の日まで子供たちがウラン鉱石を原子爆弾のために採掘してたんです。

ただ日本は、幸いなことに、原爆を作るための十分なウランが得られませんでした。もし得られていたら、日本の技術であれば、原子爆弾作れたと思います。これも、やっぱり落とされただけじゃなくて、日本だって作ろうとしてたというものを、ぜひ多くの人に知ってもらいたい部分です。

それから爆心地って言葉ありますよね、爆心地。真上で現場が炸裂したといいます。それをどうやって知ったかという、地質学者が関わってるんです。原爆が落ちた年の10月に、鉱床学者の渡辺武男という先生が、被爆した岩石等をたくさん集めました。中には、原爆の熱線を浴びて、影ができてるやつあるんです。その影の方向をたどっていくと、上で収束するわけです。それが爆心地の推定に使われたんです。これもまさにジオパーク的でしょ。

実は、渡辺武男先生、私、40年以上前なんですけども、大学院だったときに仙台駅までお送りしたご縁がございます。こういったね、原爆に関係したのものも、ぜひ子供たちの教育、あるいはジオパークでの教育、そういったものに取り入れていただきたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小川こども教育課参事。〔教育委員会こども教育課参事 小川豊雄君登壇〕

○教育委員会こども教育課参事（小川豊雄君）

お答えいたします。

今非常に興味深い話を聞かせていただきまして、大変ありがとうございました。

それで、非常に専門的な部分も含まれているかと思うんですけれども、可能な範囲で学校教育の中でできるものについては取り入れていきたいというふうに思います。よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

ジオパークとしてはどうですか、その取扱いは。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

ジオパーク活動の中では、ご存じのようにジオパークの講座のほうをしております。今ほどのお話のように、ジオパークというのは様々なつながり、様々な広がりがございますので、そのつながり等を分かりやすく説明できるような講座を、もしできれば開催のほうはしたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

金の科学や歴史についての教育普及活動の話なんですが、実はフォッサマグナミュージアムは、六、七年前かな、こういう展示会がありました。金ゴールド展、これは東京と熱海と甲府と新潟で行われました。金の科学とか金の利用の歴史、それから今、金が何に使われてるか、そういったものを展示した展示会でした。

新潟で行われた理由は、もちろん佐渡が世界遺産を目指していたからであります。この図録が、この本なんですけれども、この中には、いろんな金の面白い性質が書かれています。例えば金は、たたくと伸びますよね。実は金を光にしてやると、透けるんですよ。そういった実験も子供たちにできます。

それから金の蒸気も、実はフォッサマグナミュージアムで金の蒸気作れるんです。金の蒸気の色は紫色をしています。そういった金に絡んだいろんな教育普及活動も、今、現状、糸魚川でできますので、ぜひ今後、膨らましてほしいなと思います。

それから、橋立金山と蓮華銀座の話ですけれども、通告書にも書きましたけども、竹内明太郎、この人は竹内鉱業の社長さんだったんですね。石川県の小松に、遊泉寺銅山という銅の鉱山がありました。それも竹内明太郎の持ち山。実はそこでメンテナンス工場があったんです。名前を小松鉄工所と言いました。これが現在の小松製作所です。ですから小松製作所の社史を、会社の歴史を見ると、コマツの創始者というふうになっています。

また、車が好きな方もいらっしゃると思うんですが、竹内の資金は、日本初の自動車に使われました。DAT、D、A、Tと書くんですけど、DATのTは、竹内のTです。それは、後に日産になり、いすゞになってます。ですから、いろんなことでジオパーク的に広げていけますので、市民の方、あるいは子供たちにも興味を引くんじゃないかと思えます。

さらに、今、パラリンピックやってます、パラリンピック。メダルは、金メダル、銀メダル、銅メダルですよ。ところが銅メダルは、外国ではブロンズメダルです。カッパーメダルって言わないですよ。実は、銅メダルは、銅じゃないんですね、青銅なんです。こんな豆知識もジオパークとしては、面白いんじゃないかと思えますし、スイヘイリーベと覚えたと思うんですが、周期法では、銅、銀、金と並んでますので、化学的な説明にも使えますし、英語の学習にも使えるということです。

最後になります。

蓮華銀山、これは、ミュージアムの竹之内館長が、かつてかなり精力的に調べて、論文も書かれています。それによると、江戸時代初期に開発が始まって、昭和16年ぐらいまで、採鉱や炭鉱がされてます。その間、いろんな人が関わって、高田の栗飴、なんか有名ならしいんですけども、その高橋孫左衛門さんが関わっていたり、それから三島由紀夫の祖父、平岡定太郎というんですけど、この人は、福島県知事も務めた人です。その人も鉱山に関わってます。最後は、中島飛行機ですね、飛燕とか作って、後にスバルになった。そういったところも関わっているそうです。

銀山もそういったネタがたくさんありますので、糸魚川の銀山ね。ぜひ金と絡めて、今後、市民や子供たちに伝えていく。あるいは現地視察をする。そういったことが郷土愛につながり、郷土のより正確な深い知識というものを持つことで、糸魚川がすごいとこなんだということを説明しやすくなるんじゃないかと私は思ってる次第です。私のいろいろなネタを披露しましたが、何かコメントがあれば、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嵐口文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 嵐口 守君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（嵐口 守君）

今回のご質問いただきまして、橋立金山等を拝見いたしますと、いろいろな方の名前が出てまいります。

蓮華銀山におきましては、上杉謙信から、先ほどの三島由紀夫までと、初めて知りました。そういったお話も含めながらということは、うちの学芸員が承知しておりますので、また、いろんなところで使わせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

教育長が目の前にいますので、最後に、1894年ウォルター・ウェストンが当地を訪れて、親不知を見て、蓮華温泉を経て、白馬岳に登っています。そのときウェストンらは、蓮華銀山に立ち寄っているんですね。ちょうど登山道の横にあるんですよ。そのとき、ウォルター・ウェストンの書物を改めてみたら、鉱山の坑道に入ってるんですね、穴の中に。それから鉱石を見せられて、品位はどれぐらいかというような会話をしてるんですよ。そういったものもね、すごいなど。それから、ウェストンの記録を見ると、さっきの栗飴もちゃんと出てるんですね。これも、糸魚川ジオパークの一つの資産というか宝なので、山と絡めたり地質と絡めたり、いろんなことができると思いますので、ぜひ今後、使っていただきたいなと思います。

質問になってないわというご意見もあって、もったもだなと思ってましたけども、今回の私の一般質問は、これにて終了させていただきます。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、宮島議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕